

## 8月24日は生徒とのCS懇談会



グループに分かれて懇談しました。

8月24日(水)は、5月に行った教員と学校運営協議会の委員の方との懇談会第2弾として「代表生徒とCS懇談会」を実施しました。生徒代表には生徒会役員と学級委員の皆さんにお願いしました。内容は「和田中、こうなったらもっといいな」「悩んだときは、誰に相談する?」「楽しいとき、つらいとき、どんな時?」等、委員の方が生徒に聞いてみたいこととして出されたテーマの他に、「ざっくばらんに話をしよう」とそのグループで色々な話が出ていました。(女子は友達関係に悩みが深い??夏休みが短い!等々)

学校運営協議会の皆さんは「和田中学校のために何かをしたい」という思いに溢れ、今の中学生が何を思い、何を考えているのかに興味をもたれていました。

コロナ禍を経て、学校が地域社会において、学習だけではなく、「居場所」であったり「社会性を育む場所」であったり、多くの責任を担っていることが明らかになってきました。今後の「学校」の在り方を考えるためにも、学校運営協議会の存在は、学校運営の大きな支えになります。これからも、様々な交流を深め、より良い和田中学校の在り方を模索していきます。



思ったこと、発言したことを目の前の模造紙に書き出して、みんなで共有しました。

## 全校よのなか科 今回は…

9月10日(土)は第2回全校よのなか科を実施しました。自然環境と労働環境などの問題や、資源循環型社会を形成するために草ストローがもたらす効果など、合同会社 HAYAMIの大久保迅太さんをゲストティーチャーにお迎えして、お話ししていただきました。東京農業大学の3年生に在籍する大久保さんの弟さんが代表を務め、大久保迅太さんとベトナム人の20代の3名が始めた会社だそうです。お話を聞いていると「小さな変化を生み出すことが地球環境保護だけ



環境問題に「Z世代」と呼ばれる多くの人が自ら立ち上がり取り組んでいます。

ではなく、人々の生活改善につながり、持続可能な社会構築に貢献したい」という熱い思いが、伝わってきました。

さて、和田中学校ではどのような「小さな変化」がたくさん「小さな変化」につながるでしょうか。

※「草ストロー」は全国のオーガニックカフェなどの250店舗で導入されているそうです。



「草ストロー」を地域本部の方が購入し全校生徒に配布していただきました。

2学期が始まって3週間が経ちました。新型コロナウイルス感染拡大の第7波が吹き荒れた夏休みでした。和田中生は元気に学校生活を過ごしています。夏休み中のラジオ体操ボランティアには7名の和田中生が参加しました。また感染状況も落ち着きを見せ始め、今後、地域主催の行事も行われる予定です。地域の一員としての出番が待っています。地域と共に、これからも頑張っていきたいと思います。



# 自主貢献

第5号

発行日 2022.9.13  
杉並区立和田中学校

## きまりについて考える

校長 村山 忠久

8月23日(火)から2学期を始めておりますが、御理解と御協力に感謝いたします。2学期もよろしくお願いいたします。

9月9日(金)の生徒会役員選挙を控えた3日に選挙公報紙に目を通すと、「生徒の意見を反映する」「生徒主体の学校」「学校のルール見直し」「学校生活を見つめ直す」「和田しぐさの見直し」「和田しぐさの向上」といったことが目に飛び込んできました。嬉しく思いましたし楽しみになりました。そこで5日の朝礼で、きまりについて以下のような話をしました。

学校の生活のきまり、約束ごとについて話をします。私自身の経験に基づいた話です。

高校生のとき高校に校則がなかった。生活のきまりというものがありませんでした。あえて挙げると、オートバイに乗ってくるな、喫煙するな、といった程度です。服装についてとか、ありませんでした。どうしてでしょうか。ちなみに学校の教育目標のなかに「自主」が書いてありましたので、「そうなんだ」と思いました。やがて大学に進学しますが、もちろん「生活のきまり」などというものはありません。どうしてでしょうか。

中学校生活で考えます。「ゴミはゴミ箱に捨てること」というきまりを明文化していますか。していませんね。どうしてですか。「授業は自分の席で受けること」というきまりは明文化されていますか。していませんね。気づきましたか。皆が当たり前に行っていることはあえて「生活のきまり」にしていなくていいと思いませんか。

ある学校に勤務していた時、「カバンにつけるキーホルダーは2個まで」というきまりがありました。何が起きたか。「大きくても2個は2個」と言い出す生徒が出てきます。ぬいぐるみのような大きいキーホルダーをつけてくる生徒が現れます。小さいキーホルダーを3個つけている生徒は注意を受けるわけです。教員も注意せざるを得ない。3個つけている生徒は、大きい2個をつけている生徒の持ち出しで大きさのことで、はぐらかそうとする。でもある意味、一理ある。そう思うと今度は説得力が薄れる。話をしなくてはいけないからキーホルダーのことで時間を取らざるを得ない。説得力のないものは、なくていいと思いました。

別の学校に勤務したとき、カバンにつけるキーホルダーの個数についてのきまりはありませんでした。「考えて行動する」が基本方針だったからです。ぬいぐるみのような大きいキーホルダーをつけている生徒はたまにいます。ですが、3週間ほどでつけるものがかわっていききました。先生は「大きいんじゃないの?」とか「家に置いておいたほうが汚れないよ」というぐらいです。仲間からも「大きすぎでしょ」と言われることで考え始め、場に合わないと感じ、つけないという行動に変化したのです。

押さえておくべきことがあります。「学校は安心して通える場であること。人に迷惑をかけないこと。自分も他人も大切にすること。努力できる場であること。そして良い習慣を身に付けて自立してもらいたい。社会に出て困らないように、活躍できるように基礎を身に付けてもらいたい」ということです。

本校の教育目標は「自立貢献」です。そのために「自ら、気づき、考え、行動する(表現する)」を目指す生徒像に掲げています。

9日は生徒会役員選挙です。皆さん考えてみてください。



9日の生徒会役員選挙・立会演説会では立候補者は力強く公約を主張していました。頼もしく思いました。新しい生徒会活動が間もなく発足します。そして旧役員の皆さんお疲れさまでした。バトンが新役員に引き継がれます。新役員の皆さんの活躍、後期委員の活躍を期待しています。

## ～本当の意味の学びを～

9月4日(日)勤労福祉会館ホール(西萩)で、「広島平和学習中学生派遣」成果報告会が開催されました。本校からは3年生の小柳和奏さんが派遣生徒として発表を行いました。

この派遣事業は、『次世代を担う中学生が、広島を訪れ被爆の実態にふれるとともに、現地の中・高校生等との交流を通し、「平和」を学ぶ』ことを目的として、令和2年度から企画されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、今年度初めて実施されました。30名の派遣生徒の報告の中で、特に印象的だったのは、「被爆体験者の証言を直接聞ける最後の世代」であり「自分ができるとは何かを宣言し行動していく」ことの大切さを訴える派遣生の姿でした。



## 「杉並から世界へ」

区制90周年を迎える杉並区では、次世代につなぐ、区民や区に大きな影響を与えた5つの出来事を「すぎなみ5ストーリーズ(ファイブストーリーズ)」とし、教材を製作し、小学校等で学習に活用していきます。(杉並区HPより)その中の一つとして、杉並から全国、そして世界に広がった核兵器反対運動が取り上げられています。令和4年4月15日発行の広報杉並(No2327)には次のように紹介されています。

### ～原水爆禁止署名運動～

昭和29(1954)年3月1日、南太平洋のビキニ環礁で広島型原子爆弾の1000倍の威力を持つ水素爆弾がさく裂しました。米ソ冷戦下に行われたアメリカの水爆実験です。1000隻以上の漁船と共に静岡県焼津市の第五福竜丸が被ばくし、乗務員23名は原子病(放射線障害)となり、半年後には1名が死亡。16日に初めて新聞報道がなされ、翌17日のラジオ放送で全国民に知らされました。日本漁船の被ばくは、広島・長崎に続く「第3の被ばく」と言われました。

区内各地で「原水爆禁止」の声が高まり、杉並区立公民館を基点とした反対署名は区民の3分の2以上が署名をし、やがて世界を動かすほど大きな核兵器廃絶運動の始まりとなりました。きっかけはある女性の声でした。和田堀で魚屋を営む菅原トミ子さんが、公民館でその窮状を訴えたとき、娘の竹内ひで子さんはまだ小学生でした。



区報では、前区長の田中良さんと竹内ひで子さんの対談が紹介されています。

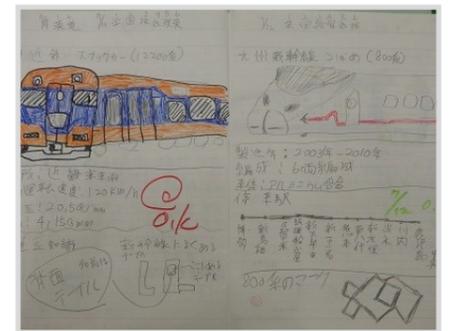
この活動は、世界的な核兵器廃絶運動につながりました。杉並のお母さん方の「安全で安心な魚を子供に食べさせたい」という思いが、世界を動かす大きな力となりました。「思い」をもって「行動する」このことは、これからの社会の中でも、必要とされる力の一つです。

## WADASTAIに見る「気づき」「思い」「探究」

「自学自習」を目的として、昨年度から全校体制で取り組んでるWADASTA(学習ノート)は、毎日ノート1ページ分の学習を、自分で勉強する内容を決め、取り組みます。授業の内容の復習、スペリングコンテストに向けた単語の練習、数学の120問に挑戦プリント、漢字検定に備えての漢字の練習、と取り組む教科も内容も、皆それぞれ違います。が、日々の成果も見取れ、繰り返し基礎基本を徹底して取り組むことの大切さを感じさせられます。



そして2年目の今年、自分が興味をもっていること、授業の内容や日々の出来事の中で気づいたこと、疑問に思ったこと、調べたこと等、日常の学びを超える内容のWADASTAも増えてきました。例えば、職場体験学習での経験を数日間かけてまとめ上げた人がいました。体験を通して学んだこと、知っていたようで初めて気づいたこと等、3日間の様子が活き活きと伝わってきました。また、歴史の授業の振り返りを、イラスト付きでまとめる人もいます。一読しただけでその当時の歴史の世界に引き込まれます。そして、毎日イラストを描いている人、365日分のバースデーカラーを調べている人、水泳の泳法をイラストでわかりやすくまとめている人等々その多彩な内容に、WADASTAのチェックをしている先生方から、思わず「凄い」「これは面白い」と感嘆の声が上がります。自分で「気づいたこと」を自分なりに深め、自分なりの「思い」を持って、WADASTAに様々な方法「行動」で表現する力は、「本当の意味での学び」の一步につながるのではないのでしょうか。



何人かのWADASTAを紹介し、「学校便りに載せていいですよ」と言ってくれた皆さんありがとうございました。紙面の都合上全員分載せられなくてごめんなさい。各学年の廊下にも展示されています。

## 「思い」を「行動」に

広島平和学習中学生派遣生のみなさんは、興味をもった広島に実際に訪れ、被爆者の方のお話を聞き、原爆資料館等で学んできました。そこで「気づいたこと」「思ったこと・考えたこと」をこれからの行動につなげようと、「自分でできること」を宣言していました。

明日、9月14日(水)から2泊3日で北陸方面に3年生は修学旅行で訪れます。2年生は10月28日(金)に鎌倉校外学習が予定されています。事前学習も進めています。文化・歴史・観光(産業)そしてSDGsについて、自分で興味を持ったこと、調べたことが、現地でより深い学びにつながることを期待しています。

9月9日(金)生徒会役員選挙が行われました。「和田中学校での学校生活をより良いものにしたい」という思いから10名の役員候補者が立候補しました。1・2年生が中心となって、和田中学校の新しい学校生活が始まります。立候補者、応援演説者ともに、思いの伝わる立派な演説でした。演説会后、3年生に「1・2年生にもう任せられますか?」と問いかけたところ、「まだまだ」というような反応がありました。コロナ禍、臨時休校の中で入学し、この2年半を感染拡大予防という厳しい生活を余儀なくされて来た3年生の中学校生活もあと半年となりました。「できることをできるだけ」という学校生活の中で、3年生が取り組み、新しい伝統になりつつあることも沢山あります。そして、その姿を見つめてきた1・2年生の今後の活動に大いに期待しています。「自立貢献」「生徒主体の学校生活」を実現し、より充実したものにしていくためにも、今後の生徒会活動がどのような展開をしていくのか楽しみです。



毎年、生徒会選挙では、杉並区の選挙管理委員会に実際に選挙で使っている記帳台、投票箱をお借りしています。3年生には3年後18歳を迎え、選挙権をもつ人がいます。「自分の1票に責任をもつ」ことを考えて投票できたのではないのでしょうか。